

■ トランプ氏「合意するのは不適切」と 米朝両首脳後の会見で（2月28日付BBC）

<https://www.bbc.com/japanese/47397637>

■ 北朝鮮外相「今後も方針は変わらない」 深夜の会見でトランプ氏に反論（3月1日付BBC）

<https://www.bbc.com/japanese/47411190>

■ 北朝鮮、寧辺施設の提案内容が明確でなかった＝米国務長官（3月1日付ロイター）

<https://jp.reuters.com/article/usa-pompeo-north-korea-idJPKCN1QI3GW>

■ 米朝首脳会談は「成功」 米大統領補佐官が擁護（3月4日付AFP）

http://www.afpb.com/articles/-/3213976?cx_part=topstory

第2回目の米朝首脳会談は、まさかの「合意なし」に終わりました。今回の会談では、おそらく進展は得られない、つまり米国の制裁解除も北朝鮮の譲歩もなく、特筆すべき内容の合意が結ばれることはない・・・ということ、先週、以下の記事で予想していました。

・「米朝首脳会談」（2/25）

<https://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=6974>

それでも、お互いのメンツを考えて、何らかの成果を演出することが予想されていました。それが、まったく何の合意もなく、しかも予定を早く切り上げて昼食会や共同記者会見までキャンセルというのは驚きでした。これもこれでドラマ的・・・さすがトランプ劇場です（苦笑）。なぜこんな結果になったのか。トランプ大統領と金正恩朝鮮労働党委員長は何を考えていたのか。結局、今回の会談はどう評価すべきか。今後どうなるのか。これらの点について私なりの見方をお伝えします。

第2回米朝首脳会談

●金正恩の誤算

まず合意に至らなかった原因ですが、一言でいえば「トップダウン外交の限界」でしょう。米朝間の立場には大きな隔たりがあり、これまでの事務レベルの協議では、そのギャップを埋めることがまったくできていないのは明らかでした。

北朝鮮の「非核化」に向けた措置として、米国は、すべての核施設の非核化、すべての核・ミサイルの廃棄、すべての核・ミサイル開発の完全申告、厳格な検証措置を求めています。これに対し、北朝鮮は、まずは寧辺地域の核施設の解体、核・ミサイル実験の停止を行う、その見返りに制裁解除を得る、という点にこだわっている、とみられます。この両者の立場の違いは、今回の首脳会談後のトランプ大統領、ポンペオ国務長官、北朝鮮の李容浩外相の発言によって明確になりました。

米国が求める非核化の実現のためには、少なくとも数年という長い時間が必要です。そのために段階的な制裁解除を行うことは、現時点で断言しないまでも、米朝のみならず日韓など関係国を含め、もはやある程度は織り込み済みといえます。しかし、そうであるとしても、ロードマップは必要であり、そのためには北朝鮮がすべての核施設と核・ミサイルに関する情報を開示する必要があります。そうでなければ交渉の入り口にも立て

ないのですが、北朝鮮は頑として受け入れず、まずは制裁解除という立場を突き通してきた、ということです。

事務レベルでの協議はこのレベルで止まっていたところ、埒が明かないのでトップでやろう、ということになりましたが、やはり北朝鮮は、情報の開示の点で譲歩することはなく、そこで終わってしまった、ということです。会談後の記者会見で、トランプは、ウラン濃縮施設はじめ寧辺以外の核施設を指摘したら、北朝鮮は驚いたようだった、と述べましたが、この点について北朝鮮側は事務レベル協議以上に踏み込む用意をしていなかった、ということでしょう。

会談後、米国（トランプとポンペオ）は北朝鮮から制裁の「全面解除」の要求を受けたとする一方、北朝鮮（李容浩）は米国に要求したのは「一部解除」だと述べており、お互いの説明に食い違いが生じています。この部分の真相は分かりません。米国も北朝鮮も「合意なし」の責任を相手に押し付けたいという発想は当然あるでしょう。

ただ、個人的には、そこまで深い意図はなく、お互いの意思疎通の不十分さが最大の要因だったのではないかと思います。米国が嘘をつくとは考えにくいですが（その動機もない）、かといって北朝鮮が「全面解除」などという無茶なボールを投げてるのかといえ、それも疑問です。

制裁解除の内容をどうするかは、かなり技術的で複雑な話になり、トップ同士で一気に決めるのは無理です。事務レベルで十分に絞り込み、明確で限定された選択肢をトップに決めさせる、というお膳立てが不可欠です。それができていなかったのであれば、現場の会談でこのような混乱が起こっても不思議はありません。ポンペオも、冒頭記事で述べたとおり、「北朝鮮の提案が明確ではなかった」と述べています。おそらく偽らざる本音でしょう。これが「トップダウン外交の限界」の一面といえます。

もっとも、ここまでの展開は、先週の記事で述べたとおり、十分に予想できました。しかし、まったくの「合意なし」は予想外でした。なぜなら、米朝双方が実質的にはまったく譲歩することなく、関係改善に向けた措置の合意を結び、それを「成果」とすることは可能だったからです。

具体的には、北朝鮮は、寧辺地域の限られた核施設の運転を停止し、米国は、その見返りに平壤での連絡事務所開設をする、というものです。米国の見返りに制裁解除と朝鮮戦争の終戦宣言も含まれるという見方もありましたが、そこまでトランプが譲歩するとは思えないことは先週の記事で述べたとおりです。なお、朝鮮戦争の終結の意義については以下の記事の解説を参照下さい。

- ・「米朝首脳会談（補足）」（18/6/19）
<https://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=5678>

これらの措置によって米朝双方が失うものは何ともありません。それをもって会談は「成功」とすれば、お互いのメンツは十分に立ったはずで。

こうした合意が十分に予測されたからでしょう、金正恩は、2日目の全体会合に入る前までは、かなり自信をもっている様子でした。会談の成功に対して疑いをもっていない様子で、外国プレスからの質問を受けるなど、余裕も見せました。

金正恩の期待がどこまで高かったのかは定かではありません。連絡事務所の開設にとどまらず、制裁の部分解除まで本気で期待していたのかもしれませんが、そうだとすれば相当に甘いというか、北朝鮮の外交当局もどこまで金正恩に正確な情報を伝えていたのか疑問がわきますが、ただ、金正恩に誤算があったとすれば、それはトランプの甘い言動のためでしょう。

トランプは、核・ミサイルの実験がなければ良い、非核化は急がない、恋に落ちた、といった発言をさかんに吹聴していました。しかもトランプは、直接会う人には誰でも褒め称え、親密な関係を築こうとすることで知られます。面と向かっては厳しく当たらず、ツッターや陰口で酷評する、というのがトランプ流です。部下を更迭する際には決して面前で「You're fired!」と言わないことなど、我々はこれまで何度もそうしたシーンを

見てきました。

金正恩は第1回目の会談でトランプに直接会っていますから、そのときもトランプは露骨なまでに金正恩を喜ばせる言動を連発したはずで、そのときのイメージが残り、直接会えば、彼は自分を特別視してくれるのだろう・・・と期待した可能性は十分にあります。何と云っても、自分自身が直接に見て得ている情報ですから、部下が「トランプに期待してはいけない」と言われても、自らの判断を優先して不思議はありません。

●トランプの思惑

では、トランプはなぜこのような対応をとったのか。無意味な取り決めであっても、外交成果としてアピールできたらうに、なぜそうしなかったのか。

トランプが、北朝鮮の「非核化」や制裁解除の内容などをめぐる複雑な利害関係を理解できていたとは思えません。長期的視野からの戦略的な思考というよりは、直感的な判断だったと思われます。

おそらくトランプの頭の中にあったのは「自分が素晴らしく見えるか」という一点でしょう。そうであれば、「無意味な合意を結んだら、批判を浴び、そこまで効果的なアピールができない。それよりは、いっそ何の合意も結ばないとした方が、安易な妥協には応じないリーダーに見えてカッコよく見える。」と踏んだのではないかと思います。

先週の記事で述べたとおり、ポンペオ国務長官とコーツ国家情報長官は北朝鮮に対して極めて懐疑的な見方を公然と示し、ビーガン北朝鮮担当特別代表は北朝鮮に対してすべての核・ミサイルの廃棄等を求めています。最強硬論者のボルトン大統領補佐官も当然に同じ立場でしょう。

スタッフからこうした意見を聞かされ、トランプも「合意なし」にむしろ魅力を感じたのではないかと思います。直前の電話会談で安倍首相から熱心に口説かれたことも影響したとの見方もあります。言い換えれば、スタッフも安倍首相も、「合意しない方がアピールできますよ」としてトランプを誘導した、ということです。

また、同じタイミングでワシントンDCで実施された元個人弁護士マイケル・コーエンの議会証言が相当に気にかかっていたのではないかと思います。わざわざ昼食会までキャンセルしたのは、一刻も早く余計な課題から離れ、コーエン証言への対応に集中したい、という気持ちの表れだったのかもしれませんが。

●首脳会談の評価

では、結局のところ、今回の首脳会談はどんな意味があったのか。これまでのトランプの交渉術は、単純で粗略な面がありましたが、それだけに一定の効果はありました。

第1回目の会談は、少なくとも緊張を緩和させたという意義がありました。北朝鮮の核・ミサイルの実験は止まりましたが、米国は制裁を一切緩めていないので、何も失うことなく状況の悪化を防いだ、という点で評価に値します。中国と北朝鮮の関係を複雑化させた点も意味があります。

しかし第2回目の会談は、中途半端な合意を結び、制裁解除をしなかったという点では「最悪な状況には至らなかった」といえますが、一方、何が得られたのかといえば、何も得られなかった、というのが正直なところだと思います。そして、金正恩のメンツが潰されたという点は有害無益ともいえます。

金正恩は今回の会談を国内向けのアピール手段として最大限に活用していました。それが思うようにはいかなかったことで、国内での権威を保つために強硬化するおそれがあります。そうであれば、せいぜい「やる必要がない、あるいはやるべきでない会談をやってしまった」というところでしょう。

米朝は双方とも会談後に今後に対話を続ける、と明言しており、「けんか別れ」ではありません。朝鮮中央通信は、今回の首脳会談が「相互の信頼を深め、両国関係を新たな段階に飛躍させる重要な契機になった」と評価し、金正恩は「トランプ大統領の積極的な努力に謝意を表し再会を約束した」と報じています。「合意な

し」とはせず、トランプとポンペオの発言と異なり第3回目の会談を約束したとするなど、できるだけ成果があったように取り繕っているところを見ると、緊張が生じる事態には至っていないようですが、今後の見通しは不透明です。

北朝鮮は、とりあえず核・ミサイルの実験は今後も行わないでしょう。一方、兵器開発を停止させる合意はできていないので、核・ミサイルは温存され、ウラン濃縮施設で核物質の生産も進むことになります。強いて楽観的な見方を言えば、金正恩も、米国の意図を明確に理解した、ということで、交渉が多少は前向きになるかもしれない、ということでしょうか。李容浩の記者会見に同席した崔善姫外務次官は「金正恩委員長が今後米朝交渉への意欲を失うのではないかと感じた」と述べていますが、これは米側の主張を虚偽とする以上言わざるを得ない文句であって、これをもってそこまで悲観的になる必要もないと思います。とはいえ、北朝鮮が今までのやり方を変えることに高い期待をかけることもできません。

韓国の文在寅政権には大きな打撃になりました。とはいえ、韓国もこれまでの方針を変えることもなく、引き続き米朝への働きかけを続けるのでしょう。

中国も今回の結果には不安をおぼえたことでしょう。会談後、トランプは、中国との通商交渉がうまく行かなければ歩み去ることもあり得るとの考えを示し、また中国に対しすべての農産品の関税の即時撤廃を求めるとツイートし、中国に揺さぶりをかけました。

ただ、米朝と米中の協議は様相が異なり、単純な比較はできません。まず事務レベルでの詰め方がまったく異なります。事務レベルで十分に絞り込み、明確で限定された選択肢をトップに決めさせる、というお膳立てがされることは間違いないので、現場での混乱は考えられません。また、北朝鮮と異なり、中国との交渉は米国民の多くが多大な関心をもっており、株価にも大きな影響を与えます。中国を揺さぶる手段として利用するにせよ、最後にトランプがテーブルをひっくり返すようなことはおそくないでしょう。

●金正恩の鉄道の旅

ところで、今回、金正恩は平壤の駅から中国を経由して陸路でベトナム入りしました。3日半かけて4500キロという大移動。いまだきバックパッカーでもなかなかやらないような行程ですね。82ミリ迫撃砲も装備してセキュリティは万全、高級ホテル並みの豪華さとのことですが。

■ 金氏、ハノイ入りも列車で 北朝鮮指導者の家の伝統？（2月27日付BBC）

<https://www.bbc.com/japanese/video-47381678>

■ 時速67キロ「のろのろ金正恩専用列車」に中国人が不満の声（2月26日付朝鮮日報）

http://www.chosunonline.com/site/data/html_dir/2019/02/26/2019022680007.html

■ 金正恩氏の専用列車は高級ホテル並み―中国メディア（2月25日付Record China）

<https://www.recordchina.co.jp/b690384-s0-c10-d0054.html>

なぜこんな長距離鉄道の旅にしたのか。1958年に金日成がベトナム訪問したときの例に倣ったと言われてしますが、おそらく前回シンガポールに行くとき中国から飛行機を借りたのが気に入らなかったのでしょうか。シンガポールに到着し、飛行機から降りるときの写真には機体に貼られた中国の五星紅旗が映り込んでいました。これは絵としてかなりマズかっただろうと思います。

では帰りはどうするのか。色々な憶測があり、もしかしたら北朝鮮のエアフォースワンこと「チャムメ1号」（通称「エアフォース・ウン」）に乗って帰るのでは・・・という説もありました。

■ 正恩氏専用機「チャムメ1号」今どこに？ 航跡消してハノイ入りも（2月27日付朝鮮日報）

http://www.chosunonline.com/site/data/html_dir/2019/02/27/2019022780185.html

でも、結局鉄道で帰ることにしました。エアフォース・ウンはやはり実用に耐えないのでしょうか。残念でしたね。

■ ハノイ米朝会談決裂の衝撃...金正恩氏、半日操り上げて帰国（3月1日中央日報）

<https://japanese.joins.com/article/775/250775.html?servcode=A00&code=A00>

■ 金正恩氏、列車で帰国の途に ホー・チ・ミン廟を訪問後（3月2日付AFP）

http://www.afpb.com/articles/-/3213846?cx_part=logly

平壤には本日午前に到着予定のようですが、北京に立ち寄って習近平国家主席に会うことはなかったようです。「合意なし」に終わった会談の報告をわざわざする意味はないでしょうし、習近平も全人代の直前という忙しい時期なので、これはこれで不思議はありません。

あとがき

年明けから五本指ソックスを使うようになりました。松井秀喜やイチローが愛用していると聞いていましたが、実際使ってみると、これは良いですね。

たとえばゴルフで使うと足の疲労感が全然違います。昔からマラソンやサッカーなど靴を履いて長時間運動すると、爪が内出血したり、潰れることが多かったのですが、五本指ソックスだと指先がくっつくことによる圧迫がなくなるので、そういった症状も避けられそうです。

また、指先の動きが自在なので、プレーにも良い影響が出るような感じがします（そこまで劇的な効果はまだ見られていませんが・・・笑）。

あまりに快適なので、スポーツのみならず日常生活でも使うようになりました。難点は、履くのに少し時間がかかるのと、洗濯したときに指先をひっくり返すのが面倒なことです。まあ、これも慣れの問題ですかね。

【発行】The Gucci Post

(Copyright 2019 グッチーポスト株式会社)

【世界情勢ブリーフィングHP】<https://guccipost.co.jp/blog/jd/>

【バックナンバー】<https://guccipost.co.jp/blog/jd/?cat=29>

【グッチーポストHP】<https://guccipost.co.jp/blog/>

【編集部Facebook】<https://www.facebook.com/GucciPost/>

【編集部twitter】https://twitter.com/gucci_post

【お問い合わせ】inquire@guccipost.co.jp